

人 ⑤ 中国を抜きに語れない人生

小 熊 仁 一 郎 さん
奥野 七十七歳

生まれたのは明治四十四年の二月七日だ。七人兄弟の長男だ。大野小の高等科を出て、十四、五で新潟の支那の鶏卵を扱う商店に丁稚奉公に上がった。二年ほど勤めて、旦那さんが奈良で銭湯をするというのでついていった。ズブの素人でカマのたき方もわからなかった。失敗した。次に芸者の置屋で働いた。芸者が乗った人力者の後を、三味線を持つて走った。その話を親父が知って、大野へ帰らせられた。「土建業のうちの跡をつげ、日当取りをすればいい」と言うのでそうした。たしか昭和五年だと思ふ。

母親が新潟で行商をしている間、子供のころ中国料理店にあずけられていたからだ。小さいときから機械やエンジンが好きで、戦車の操縦もしたし、「愛国（飛行機）の整備もした。大野町の消防ポンプ

にはフォードのV8エンジンが積んであったけど、これはオレが町に頼んで買ってもらったもんだ。戦争中、皇居に徴用されていたくらい性能はよかった。十六年に帰って、青年学校で軍事教練を教え

た。人にものを教えるなんてと思つたが頼まれた。ほかに保健康婦の助手をしたりした。

終戦後は、土建屋に戻った。ただ、公職追放を受けてしまい苦しかった。公の仕事をするには資本も技術もなかった。私はスコップ一丁だ。だから、民家が多かった。基礎コンクリートとか家屋の移動とか。戦争中、大林組から技術を覚えさせてもらったので、腕はよかつたと思う。新潟地震でも私らのやつた基礎は狂わなかつた。子供は三人、孫も小学生と保育園に二人いるが、かか(妻)は十四年前に死んだ。仕事は二年前に辞めて、今は無職(色)透明だ。左足と腰が悪いが。私の人生は中国を抜きに語れない。戦争中、中国に迷惑をかけたので、罪滅ぼしをしたいと思つている。(I g)



上/小熊さん。戦争が終わって43年、生きてるのが不思議という。右下/22歳、昭和7年中国服を着ている。軍服は狙われるからという。左下/大野国民学校の助教諭を命じられた文書。昭和9年~12年、16年~20年、軍事教練などを教えた。

昭七に徴兵検査に合格して新発田十六連隊に入り、三月に満州へ行った。そこで「兵用地質収集班」に就いた。井戸や宿泊所などを調べる任務で進軍するときは、その半日先を歩いていった。中国服を着ていつも独りだった。だから戦友がいない。こんなスパイみたいなのをしていると長く生きれないと思ひ、戦車隊に入った。翌年に帰国したが、また十二年に支那事変が起きたので徴収された。また、兵用地質をやった。

ほんの一冊

波間のこぶた (銀色夏生)

角川文庫

この本は5分で読めます。そして

5日間くらいはハッピーな気分になれます。好きです、こういうの。120ページほどの右ページは物話(ほとんどひらがな)左ページにイラスト。こぶたのタックンとキヌちゃんのかわいいこと。でも「ぼくはぼくよりもきみを傷つけちゃいけないと思つている」とか「ふりむくたびにあなたがいてくれたら、ぼくは泣けるほどうれしいの」とか「ぼくがキヌちゃんをすきなのはキヌちゃんがぼくをすきだからです。ぼくをすきな人がぼく以外にいるなんて、とてもしあわせです」なんてセリフにハッとしたりニタツしたりウーンとうなったりしてしまいます。ボーイフレンド、ガールフレンドに贈る本には最高!長い手紙と一緒に。 Ig



人口動態 (人の動き) 前年同月比

| | | | |
|---------|--------|-------|--------|
| 8月末日現在 | 23,073 | (+58) | [+352] |
| 男 | 11,351 | (+36) | [+169] |
| 女 | 11,722 | (+22) | [+183] |
| 世帯 | 6,104 | (+16) | [+133] |
| 8月1日~末日 | | | |
| 出生 | 25 | 転入 | 99 |
| 婚姻 | 4 | 転出 | 55 |
| 死亡 | 11 | | |

来月号は 高齢化社会や 福祉を特集します。

ほかに9月定例議会などです。観光の特集を考えています。ご意見をどうぞ。

